【事例】「那覇大綱挽」の円滑な実施のための可動式中央分離帯の設置	
社会資本の概要	【所在地】 沖縄県那覇市 【社会資本の種類】 道路 【社会資本の名称(事業名)】 国道 58 号 【事業主体】 内閣府 【供用開始時期】 1980 年
配慮の概要	国道58号の中央分離帯設置にあたり、それまで道路の全面を利用して行われてきた伝統行事の「那覇大綱挽」が継続して行われるように、これを可動式にして整備した。
位置図	
施設の状況写真	 国道58号の中央分離帯。 出所:那覇市観光協会 中央分離帯撤去後に置かれた大綱。 出所:那覇市観光協会 「那覇大綱挽」の様子。

観光との関わり	**○沖縄の中心地を貫く幹線道路** 国道58号は沖縄本島西海岸を南北に縦走する主要幹線道路である。近隣には沖縄有数の商業地区・国際通りがあり、県内の経済・物流の拠点として、国道58号はそれを支える大動脈となっている。「那覇大綱挽」が行われる久茂地交差点は沖縄県那覇市の中心街に位置し、沿道には県内外の企業が多数立地している。交通量は69,000 台/日(平日)と、非常に多い。 **○国道を閉鎖して行われる世界一の「那覇大綱挽」** 「那覇大綱挽」は、久茂地交差点を中心に道路を閉鎖して、毎年10月第2月曜日の体育の日前日に行われる。使用する綱は、全長 200m、直径 1.56m、総重量 43t、手綱総計 256 本という、ギネスブックに認定された世界一の大綱である。久茂地交差点で雄綱と雌綱を結び合わせて、綱挽き参加者が国道上で東西に分かれて綱を引合い、30分以内に2m以上綱を引いた側が勝ちとなる。 **○市制50周年記念で復活した沖縄行事の一大イベント** 「那覇大綱挽」は琉球王朝時代からの伝統行事であり、1971 年に市制50周年記念事業として、1935 年を最後に途絶えていたものを復活させた。現在では、沖縄県民だけでなく、観光客や外国人ら総勢1万 5000 人あまりが一体となって綱を引き合うという沖縄行事の一大イベントとなり、沖縄観光 PR の一部を担っている。
配慮事項	**○道路整備の経緯** 1971 年の「那覇大綱挽」復活時には、米軍の軍用道路として整備された広大な道路が会場として選ばれたが、72 年の本土復帰後の国道への移行に際して中央分離帯、歩道、排水施設等が設置されることになった。 **○道路整備における祭りの実施に対する工夫** 道路整備の際には、それまで行われてきた「那覇大綱挽」を継続して同じ場所で行うことができるように、中央分離帯を可動式として設計・設置した。綱挽きの前日に、国道の中央に設置されているコンクリート製の分離帯ブロックを大型クレーンで1つずつ取り外し、撤去部分を鉄板で覆った後、その鉄板上に大綱を設置する。分離帯の撤去作業と大綱の設置作業は連続して一晩のうちに行われている。撤去される分離帯は久茂地交差点を中心に、空港方面 87m、名護方面 93m で、分離帯が無い交差点部分の 38m を含めて、国道58号上に合計約 220m の「大綱挽エリア」を確保している。
連絡先	沖縄総合事務局 南部国道事務所 TEL:098-861-2336 http://www.dc.ogb.go.jp/nankoku/

※類似事例:兵庫県神戸市 新神戸停車場線(新神戸停車場線整備事業)

「神戸まつり」のパレードに利用されるフラワーロードの中央分離帯の一部が、約 100m にわたってプランターで構成され可動式になっている。